

始業式校長挨拶

令和2年4月16日

いよいよ今日から令和2年度の本荘高校での学校生活が始まります。世界はもちろん日本国内でも新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しが見られません。今日こうして始業式を迎えられること、何事もない普段の日々のありがたさを改めて感じています。今後に関してもわからぬことが多いのですが、生徒の皆さんの安全を第一に考え、本高の全職員が最善の努力をしていきます。皆さんにも自分たちで出来ることをしっかり行って欲しいと思います。

1年の始まりにあたり、一つだけお話しします。

昨年の秋、日本はラグビーワールドカップで初のベスト8に進出しました。「ワンチーム」という言葉を誰もが語り、日本全国が喜びに沸きました。台風の被害に苦しむ人々に希望を与えてくれました。それから約半年、誰もが予想しなかった事態が世界を襲っています。新型コロナウイルスによる世界的な被害です。ここからわかることは「私達は予測が困難なこれからの時代を生きていかななくてはならない」ということ、そして失ってはならないものは「未来への希望」だということです。

今年度の最初、先生方に「本荘高校は人を育てる学校でありたい」という話をさせていただきました。そこでの「人」というのは、予測の出来ないこれからの時代の変化に対応できる、心豊かでたくましい人間という意味です。皆さんが希望している大学進学や就職も確かに大切です。全力で目標を達成するよう努力してください。ただその先にある人生を自らの力で切り拓く力をこの本荘高校で身につけてください。そのためにすべきことは、一生懸命に学び、本を読み、学力と教養と知恵を身につけてください。また、部活動や学校行事にも全力で取り組み、先生方や友との語らいの中で心と体を鍛え、人の気持ちや痛みをわかるようになってください。

今後の学校生活もいつ状況が変わるかわかりません。しかし大丈夫です。本高の先生方を信じて、指示を受けしっかりとやるべき事を実行してください。かのインド独立の父マハトマガンディーは「よいものはカタツムリのようにゆっくり進む」といいました。危機管理は素早く行うべきですが、人作りはゆっくりじっくり進むべきです。今日から始まる1年間は、楽しいこともあれば苦しいこともあるはずですが、しかし、どんな経験でも無駄なものはありません。様々な経験を積み、心にも免疫力をつけ、これからの学校生活を全力で過ごしてください。

最後に、昨年皆さんに貫き通して欲しい姿として、機会あるごとに「正々堂々」ということを話してきました。これからの一年、皆さんが誰にも恥じることのない、自らの行動を自らの意思でコントロールできることを願って、年度最初の挨拶とします。